

報道関係各位

 2025年11月6日
 株式会社クロス・マーケティング

世の中で害獣の被害が「増えた」と感じる人は68% 害獣だと思う動物の上位は、クマ、イノシシ、ネズミ

– 害獣に関する調査（2025年） –

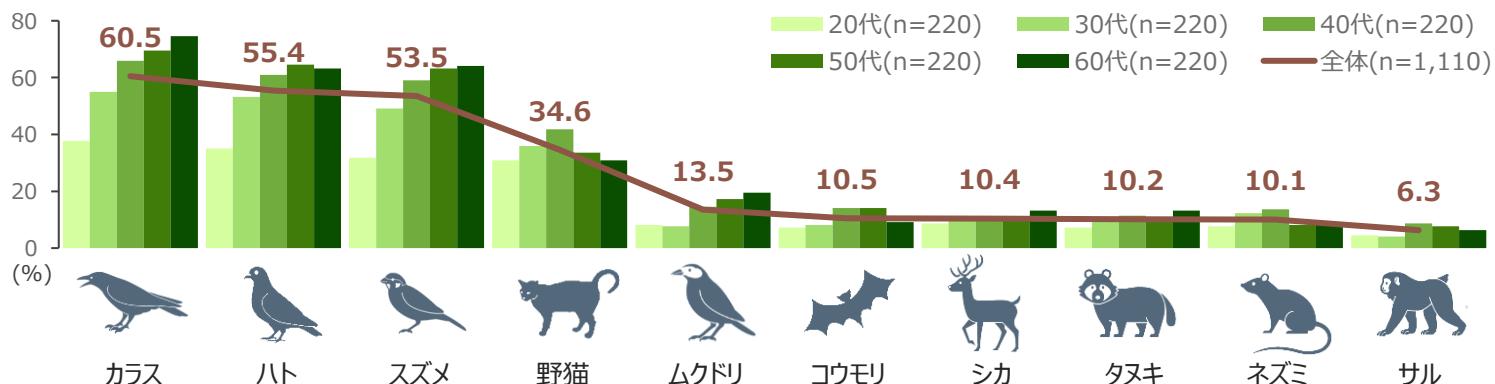
株式会社クロス・マーケティング（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：五十嵐 幹）は、全国20歳～69歳の男女を対象に「害獣に関する調査（2025年）」を実施しました。今年はクマやシカ、イノシシなどの害獣による目撃情報や被害が増加しています。これまでには、山や森など自然の多い場所に限られましたが、都会での目撃情報・報道も増加し、身近な問題となっています。今回は、「この1年間に日常生活で遭遇した動物・鳥類」「害獣だと思う生き物」「害獣の目撃情報や被害が増えたと感じるか」「害獣対策として気を付けたほうがよいと思うこと」「害獣に関する体験」について聴取しました。

◆調査結果の続きはこちらへ ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/trend-eye/20251106animal>

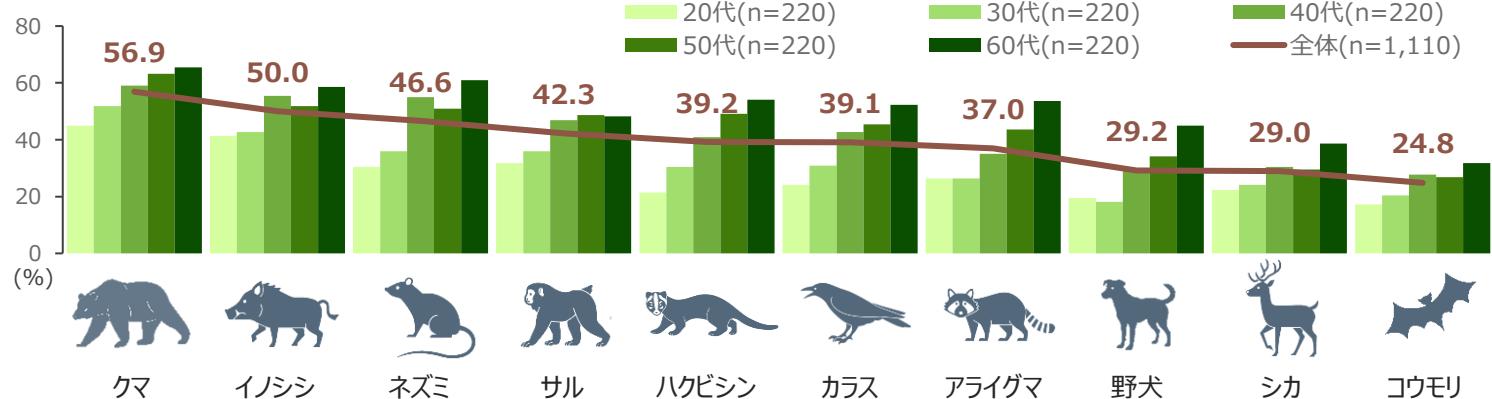
■調査結果

- ✓ この1年間に、日常生活で遭遇した動物・鳥類は、「カラス」「ハト」「スズメ」がTOP3で、いずれも半数を超える。
上位3項目は、年代が上がるにつれて見かけた割合も高まる。<図1>
- ✓ 害獣だと思う生き物は、「クマ」「イノシシ」が5割台、「ネズミ」「サル」が4割台。
いずれの生き物も年代が上がるにつれて害獣だと思う割合が高くなる傾向が見られた。<図2>
- ✓ 世間一般で害獣の目撃情報や被害が「増えたと感じる」人は67.6%。
60代で害獣の目撃情報や被害が「増えたと感じる」人の割合が他の年代に比べて飛び抜けて高い（80.9%）。<図3>
- ✓ 周辺で害獣の目撃情報や被害が「増えたと感じる」人は26.7%、53.3%は「変わらない」。
世間一般と比較するとまだ自分の周辺では、害獣の目撃情報や被害が増えたと感じる人は少ない。<図4>
- ✓ 害獣対策として気を付けた方がよいと思うことは、「見かけた場合、むやみに近づかない」「ゴミ捨て場をネットやカゴで厳重に覆う」「生ゴミを屋外に放置せずにゴミ出しのルールを厳守する」「害獣に限らず、野生動物に意図的に餌を与えない」「野生動物の生息地域になるべく立ち入らない」が上位5項目で、いずれも3割を超える。<図5>
- ✓ 害獣に関する体験を聴取したところ、カラスやイノシシに関する内容が多く、特にカラスがゴミを荒らすことに困っているといった声が散見された。<図6>

<図1> この1年間に日常生活で遭遇した動物・鳥類 TOP10（複数回答）



<図2> 喪獸だと思う生き物 TOP10 (複数回答)



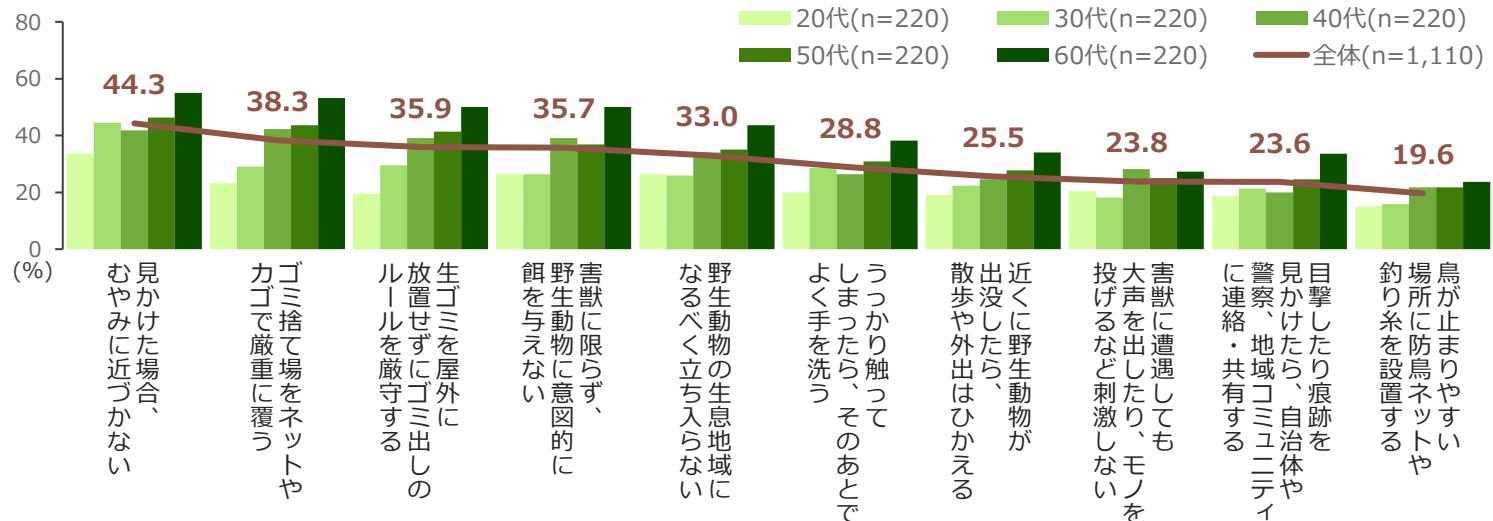
<図3> 喪獸の目撃情報や被害が増えたと感じるか／世間一般 (単一回答)

n=	増えたと感じる	やや増えたと感じる	変わらない	あまり増えたと感じない	増えたと感じない	増えたと感じる・計
全体 (1,100)	44.5		23.1	22.9	2.0 7.5	67.6
20代 (220)	36.4		23.6	26.4	2.7 10.9	60.0
30代 (220)	41.4		20.0	26.8	2.3 9.5	61.4
40代 (220)	41.4		26.4	24.1	1.4 6.8	67.7
50代 (220)	51.4		16.8	21.8	3.2 6.8	68.2
60代 (220)	52.3		28.6	15.5	0.5 3.2	80.9 (%)

<図4> 喪獸の目撃情報や被害が増えたと感じるか／周辺で (単一回答)

n=	増えたと感じる	やや増えたと感じる	変わらない	あまり増えたと感じない	増えたと感じない	増えたと感じる・計	
全体 (1,100)	12.9	13.8		53.3	6.7	13.3	26.7
20代 (220)	10.0	12.3		51.4	9.5	16.8	22.3
30代 (220)	10.5	10.9		55.9	6.4	16.4	21.4
40代 (220)	13.2	13.6		55.5	5.9	11.8	26.8
50代 (220)	13.6	15.5		52.3	8.2	10.5	29.1
60代 (220)	17.3	16.8		51.4	3.6	10.9	34.1 (%)

<図5>害獣対策として気を付けたほうがよいと思うこと TOP10 (複数回答)



<図6>害獣に関する体験 (自由回答一部抜粋)

- カラスの巣が近くにあつたらしく、街なかの歩道や公園の散策路を通行中に上空から頭頂部を攻撃された（男性40代）
- カラスが生ゴミを荒らす。ネットをかけてもクチバシで動かし中身をあさっている。人間が近づいても逃げずにゴミを荒らし続けている（女性40代）
- イタチが庭に入ってきて飼い犬と遭遇した時はびっくりした（女性50代）
- 屋根裏あたりにコウモリの巣があるようで、死んだコウモリが落ちてきた（女性60代）
- 5年ほど前に三重県のバスハイキングツアーに行ったときに、添乗員がイノシシに襲われて、途中でツアーキャンセルとなった（女性60代）
- イノシシに突然遭遇しひっくりした。予想より大きかった。昔と比べてタヌキによく遭遇する気がする（男性40代）
- イノシシなどの動物が畠の野菜を食べ散らかしていた。防御のために網をしていたが土を掘りぐる抜けていた。賢いと思った（男性50代）
- ヌートリアを大阪市内の河川で見かけた。都会まで進出してると感じた（男性50代）

■調査項目

- 属性設問
この1年間に日常生活で遭遇した動物・鳥類
害獣だと思う生き物
害獣の目撃情報や被害が増えたと感じるか
害獣対策として気を付けた方がよいと思うこと
害獣に関する体験談

◆クロス集計表のダウンロードはこちらへ ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/trend-eye/20251106animal>

■調査概要

- 調査手法 : インターネットリサーチ（クロス・マーケティング セルフ型アンケートツール「QiQUMO」使用）
 調査地域 : 全国47都道府県
 調査対象 : 20～69歳の男女
 調査期間 : 2025年10月31日（金）～11月1日（土）
 有効回答数 : 本調査1,100サンプル

※調査結果は、端数処理のため構成比が100%にならない場合があります

【会社概要】

- 会社名 : 株式会社クロス・マーケティング <http://www.cross-m.co.jp/>
 所在地 : 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー24F
 設立 : 2003年4月1日
 代表者 : 代表取締役社長兼CEO 五十嵐 幹
 事業内容 : マーケティングリサーチ事業、マーケティング・リサーチに関わるコンサルテーション

◆本件に関する報道関係からのお問い合わせ先◆

広報担当 : マーケティング部 TEL : 03-6859-1192 FAX : 03-6859-2275

E-mail : pr-cm@cross-m.co.jp

«引用・転載時のクレジット表記のお願い»

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。

〈例〉「マーケティング・リサーチ会社のクロス・マーケティングが実施した調査によると・・・」